

# 「無理なく・無駄なく」進める 指導と評価の一体化に向けた研究

岐阜県立長良高等学校  
桑原 啓優

1

## 目次

1. 観点別評価を取り巻く現状
2. 「指導と評価」の計画立案のポイント
3. 各「軽重」の取り扱い—英Cの実践より—

2

## 1. 観点別評価を取り巻く現状

3

## 周りの教員と話す中で...

- ・「知識・技能」と「思考・判断・表現」の違いは。
- ・ABCの評価基準はどう設定するのが良いのか。
- ・10段階とABCの整合性はど取るのがいいのか。
- ・パフォーマンステストをやっているが適当か。
- ・観点別評価の実施にあたって混乱している。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」とはそもそも何なのか。



とりあえず  
Writing / Speakingもやってみて、  
ABCをつけてみましょう！



4

## 学習指導要領・改定の趣旨より

高等学校の授業においては、依然として外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないこと、「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないこと、読んだことについて意見を述べ合うなど複数の領域を結び付けた言語活動が適切に行われていないことといった課題がある



疑問点は多くある一方、「とりあえず始めてみた」ことにより、パフォーマンステストに向けた「話すこと」や「書くこと」及び発展的な「読むこと」の言語活動が以前より広がりがつある。

新学習指導要領の施行により、  
授業改善が進められた

すなわち...

5

## 指導と評価を取り巻く現状

根幹となる部分には疑問が多く残る

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」とは。
- 「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラムマネジメント」など新指導要領で求められていることは。

本質がつかめていない中で実施していることからスムーズな実施や組織での共有が難しい。  
→「不安」や「負担」が生じる。



2年間取り組む中で広く明らかになったこと

- 「話すこと」「書くこと」の評価の機会をしっかりと設けることが必要。
- 実際に動き出してみたら評価までたどり着くことはできる。
- 従来の指導から180度転換しているわけではない。

6

## 指導と評価を取り巻く現状

学習指導要領 改定の趣旨より

平成21年改訂の学習指導要領は、小・中・高等学校で一貫した外国語教育を実施することにより、外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度や、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする力を身に付けさせることを目標として掲げ、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」などを総合的に育成することをねらいとして改訂され、様々な取組を通して指導の充実が図られてきた。

旧学習指導要領における取り組みに改善の余地があったが、それ自体を否定するものではない。



従来の取組の中で不足する事柄を付け加えさえすれば、  
これまでの取組を大きく見直さずとも対応できる。

7

## 評価のためのマトリックス

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと(発表)	話すこと(やり取り)
知識・技能	従来の手法を活用			新たに検討が必要	
思考・判断・表現	「何となく」で実施			新たに検討が必要	
主体的に学習に取り組む態度	よくわからないor「思考・判断・表現」と一体化して評価				

パフォーマンステストによって評価

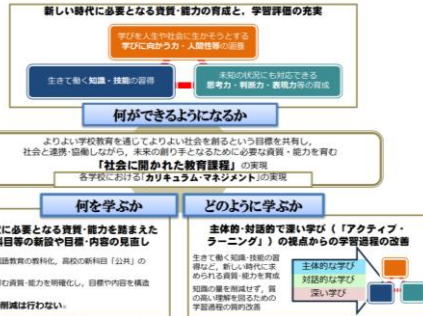


パフォーマンステストさえ加えれば、  
評価のマトリックスがほとんど埋まり、評価が成立する

8

## 何が負担か？

### 新学習指導要領の考え方



「学習内容の削減は行わない」  
↓  
従来でも余裕がなかったのに  
更に指導内容を充実させることは  
負担過重

9

## なぜ「学習内容の削減は行わない」？

### 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、...【中略】...すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考えることに他ならない。...

「学校における教育課程編成の実証的研究」(国立教育政策研究所)

### 「カリキュラム・マネジメント」について

各学校のカリキュラム・マネジメントを充実させることは、新たな取組を追加することではありません。学校の様々な業務の効率化を図ることにより、カリキュラム・マネジメントの充実につなげていきます。

「文部科学省ホームページ」

広い枠組みでの「効率化」が必要！

10

## 今までの指導の常識を疑う

「単語は大切だから単語帳を活用した小テストを実施しよう」

→どの程度の語彙が必要か検証したか。小テストが効果的か。

「文法は不可欠であり、最優先で教え込む」

→他の指導事項とのバランスは適切か。

出口(=大学入試)を意識した時に網羅的な文法知識がどれほど大切なのか。

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

「高等学校学習指導要領(平成30年度告示)解説 外国語編 英語編」

11

## 今までの指導の常識を疑う

ちょっと昔の調査ですが... 金谷(2008)より

大学入試を受けるうえで重要な構文はどれかというインタビューをしたところ、約半数の有名私立進学校の先生方から次のような回答が得られた。つまり、入試で頻出のものは'no more...than-'(表2での頻度1)、『all the 比較級 + for''(頻度1)、『might as well ... as-'(頻度0)などであり、あまり問われないものは'so ...that-'(頻度31)、『it is ... to-'(頻度92)、『in order to-'(頻度13)などである、という回答である。これは表2とは全く逆の認識であり、まさに入試には難しい物、細かいものが重要であるという「思い込み」によるものと考えられる。

「経験」と「知恵」が「思い込み」であるとベクトルが定まらなくなる。

12

## 今までの指導の常識を疑う

「教科書では不十分だから問題集をどんどん買おう」  
 =教科書で大学入試は突破できないのか。  
 教科書の適切な扱いは徹底的に検討したか。

「英語は正確に使わなければならない」  
 =語彙...スマートフォンを使い、「片手で」検索できる  
 推敲...ChatGPTなどの生成AIに入力すれば一瞬で完了する。

※時代に即した指導とは？

13

## 近年の入試問題の変化

2023年 北海道大学 前期日程 英作文  
 (「Sushi」が世界に広がっていく中での変化)についての長文を読んだうえで...)

Considering the article you have just read, do you think that the influence of foreign food culture on traditional dishes from your country is a good thing or bad thing? Write a 70-100 word paragraph to explain your thoughts.

2023年 静岡大学 前期日程 英作文

Imagine your life ten years from now and describe it. Answer in about 120 words in English.

バランスの取れた4技能を育てることが必要  
 併せて「柔軟な発想力」を多様なトピックで育てていくことが必要

14

## 近年の入試問題の変化

共通テスト「令和7年度大学入試共通テスト 試作問題「英語」の概要より

・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。  
 ・併せて、高等学校において、英語を「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]・[発表]」、「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られていることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。

真っ向勝負で学習指導要領と向き合えば、大学入試も突破できる

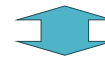
↓  
 教科書は学習指導要領を基に作られている

↓  
**教科書の有効活用**

15

## 新カリを「武器」にするために...

「新カリは授業改善の起爆剤」



負担感が増えるとブレーキが掛けられてしまう可能性も

→汎用性の高い指導と評価のフレームワークを提案する

どの学校・どの教員でも活用しており、  
 学習指導要領を強く反映している「教科書」を軸に

16

## 2. 「指導と評価」の計画 立案のポイント

17

## 項目を見直す

	英語コミュニケーション I (3単位)	論理・表現(2単位)
授業	教科書を使った指導 模擬試験(年3回)の対策 ALTによる授業(6時間に1回)	教科書を使った文法解説 作文の練習 やり取りの練習(英コミへの「乗り入れ」) レシテーション・プレゼンテーション練習 模擬試験の対策(年3回)
課題	週末課題(長文総合問題集1冊) 模擬試験対策 音読補助アプリ 長期休業課題	教科書付属問題集・文法書 オンライン英作文添削サービス 外部検定試験(4技能型)+付属問題集
その他	単語テスト(毎週単語帳を基にしたリストより)	例文テスト(毎週) レシテーションコンテスト プレゼンテーションコンテスト

18

## 項目を見直す

【英C I】

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと(発表)	話すこと(やり取り)
知・技	教科書 単語テスト			音読補助アプリ	
			ALT授業		
思・判・表	教科書				
			ALT授業		
			各種課題・模擬試験演習など		
態度	主体的に学習に取り組む態度は思考・判断・表現と一体化して評価				

19

## 項目を見直す

【英C I】

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと(発表)	話すこと(やり取り)
知・技	定期考査(既習事項を問う問題) 小テスト			音読補助アプリ パフォーマンステスト	
思・判・表	定期考査(初見英文 要点を問う問題等) 課題の提出			パフォーマンステスト	
態度	主体的に学習に取り組む態度は思考・判断・表現と一体化して評価				

小テスト...「知識・技能」を測るという項目になるが、他指導項目との関連を取らせて実施をしていない  
模試演習...指導はするが、他指導項目と関連をさせて実施をしていない

20

## 項目を見直す

### 【論理・表現】

	書くこと	話すこと(発表)	話すこと(やり取り)
知・技	教科書文法	やりとりの練習	
	例文テスト	レシテーション・プレゼンテーション	
	作文		
	模擬試験・外部検定試験(GTEC)へ向けた指導		
思・判・表	作文	レシテーション・プレゼンテーション	
	教科書表現	やりとりの練習	
	模擬試験・外部検定試験(GTEC)へ向けた指導		
態度	主体的に学習に取り組む態度は思考・判断・表現と一体化して評価		

21

## 項目を見直す

### 【論理・表現】

	書くこと	話すこと(発表)	話すこと(やり取り)
知・技	定期考査(文法・表現)小テスト	パフォーマンステスト 外部検定試験スコア	
思・判・表	定期考査(英作文)各種課題 外部検定試験スコア	パフォーマンステスト 外部検定試験スコア	
態度	主体的に学習に取り組む態度は思考・判断・表現と一体化して評価		

22

## 項目を見直す

現時点において評価の材料は「潤沢に」揃っている  
→他指導項目とのかかわりが薄いものや、他指導項目でカバーできるものを整理する

### 【英C I】

- 教科書を軸にして「4技能」をバランスよく指導していく
- 教科書との関連が薄い、教科書と重複している項目を削り、精選する  
= 単語テスト・授業内での模擬試験の演習を取り止める

### 【論理・表現 I】

三つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化する指導を行う科目

…語や文法事項については、「論理・表現 I」における三つの領域別の目標を達成する上で必要なものを適宜取り扱う。「英語の特徴やきまりに関する事項」を単に「知識」として理解させるだけではなく、その知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる「技能」が身に付くよう指導する…

→例文テスト・授業内での模擬試験対策演習を取り止める

23

## 項目を見直す

	英語コミュニケーション I (3単位)	論理・表現(2単位)
授業	教科書を使った指導 模擬試験(年3回)の対策 ALTによる授業(6時間に1回)	教科書を使った文法解説 作文の練習 やり取りの練習(英コミへの「乗り入れ」) レシテーション・プレゼンテーション練習 模擬試験の対策(年3回)
課題	週末課題(長文総合問題集1冊) 模擬試験対策 音読補助アプリ 長期休業課題	教科書付属問題集・文法書 オンライン英作文添削サービス 外部検定試験(4技能型)+付属問題集
その他	単語テスト(毎週単語帳を基にしたリストより)	例文テスト(毎週) レシテーションコンテスト プレゼンテーションコンテスト

模擬試験のスコアや、語彙力テストのスコアについて大きな変動が無いかを検証する必要がある。

24

## 語彙サイズテストの結果

	1年1月
平均	2875
最高	3691

※今年度は入学当初に調査を行っていないが、例年だと本校1年生は入学当初は2100—2300程度の語彙レベルである。

25

## 教科書の指導を充実させる

平成28年度より・・・青森県立田名部高校の実践を参考に  
「教科書の単元の扱いに軽重をつける」

### 単元軽重をつけることのメリット

- ・教科書を1冊終わらせることができるため、指導項目の抜け漏れがない  
【＝「教科書だけで大学入試は突破できる」を実現する】
- ・インプットの量を確保しながら、アウトプット活動も無理なく実施することができる
- ・各単元の目標が明確になることにより、指導方針が共有しやすくなる 等

26

## 英C(C英)について～従来の単元軽重～

H28～ 教科書単元を3つに分類

分類	所要時間	評価	指導内容
△	3時間程度	追加読解演習	速読中心で指導を行う
○	9～10時間程度	ライティングテスト スピーキングテスト	音読→リテリングまで行う
◎	12～13時間程度	ライティングテスト スピーキングテスト	音読→リテリング→PTまでを行う

PTを必ずしもやらなくても良いことや、△の単元での「読むこと」の評価の方法が曖昧であったことなど、「評価」については不十分な面があった

27

## 単元軽重を発展させる

教科書単元を3つに分類 単元種別ごとにやることを焦点化

分類	所要時間	評価	指導内容	回数
△	3～4時間	定期考査【読・聞 思判表】	リーディング・リスニングストラテジーを指導した上で、教科書本文を初見で処理する 要点を捉えられているかを要約などで確認する	年4回
○	9～10時間	PT(形成的評価) 定期考査【読・聞 知技】	音読・再話を通して教科書表現の定着を図る。 言語材料に応じて、◎の単元と同じ「型」の活動を行う。(評価はしない)	年4回
◎	12～13時間	PT(総括的評価) 定期考査【読・聞・書 知技】【書 思判表】	○の単元の内容を掘り下げつつ、単元末にパフォーマンステストを実施	年2回

28

## 年間計画を策定(英C)

単元	軽重	重点指導項目	タスク	評価方法	順序
ブリッジ	○	学習方法の確認等	学習方法の確認・スピーチ	定期考査 L4PT	1
Lesson 1	○	話(発表)・書	スピーチ	L4 PT 定期考査(作文)	2
Lesson 2	△	読・聞	速読(時系列)、メモの取り方	定期考査(初見英文)	3
Lesson 3	○	話(やりとり)	ディベート・ディスカッション	L10 PT	5
Lesson 4	◎	話(発表)・書一	プレゼンテーション	PT(発表) 定期考査(作文)	4
Lesson 5	△	読・聞	速読(時系列)、意見・感想を述べる	定期考査(初見英文)	8
Lesson 6	△	読・聞	速読(要点)、要点をまとめる	定期考査(初見英文)	6
Lesson 7	○	話	プレゼンテーション、即興の質問	L10 PT	7
Lesson 8	○	話・書	ディスカッション	L10 PT	10
Lesson 9	△	読・聞	速読(要点)、意見を述べる	定期考査(初見英文)	9
Lesson 10	◎	話(やりとり)・書	ディスカッション	PT(やりとり)	11

29

## 評価のマトリックスに当てはめる

	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと(発表)	話すこと(やり取り)
知・技	○・◎				
思・判・表	△	○・◎		◎	
態度	主体的に学習に取り組む態度は思考・判断・表現と一体化して評価				

△の単元は年4回あることで、年間を通して複数回マトリックスの項目を評価できる  
◎の単元のPTは年2回だが、○の単元でリハーサルを繰り返すことで、指導は年間を通して複数回行うことができるため、一発勝負にならず、伸長を見ることができる

30

## ここまでのまとめ

「教科書を大切に」することに主眼を置き、指導項目を精選する  
＝演習などを「頑張りすぎ」なくても大きな問題は生じていない

単元軽重を付けることで、

- －アウトプット活動を実施しても指導に余裕が生まれる
- －評価のマトリックスを「一発勝負」にせず、機能的に回すことができる
- －ゴールを共有できるので指導も共有しやすい

→余裕をもって指導と評価の一体化を進めることができる

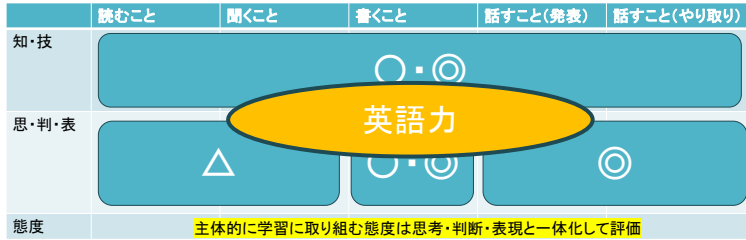
31

## 3. 各「軽重」の取り扱い —英Cの実践より—

32



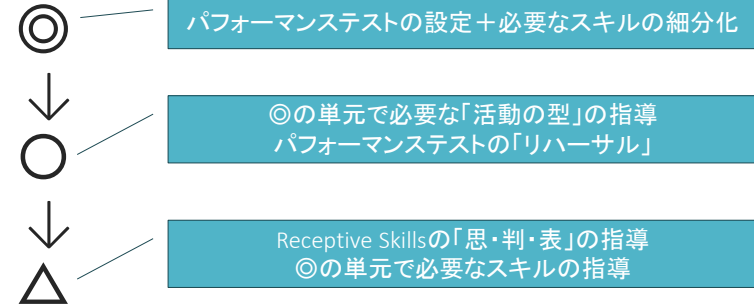
## 各単元の扱い方を考える前提



◎・○・△の単元で評価する項目は異なるが、「英語力」という観点で各項目は結びついている。  
 =独立したものではなく、技能・観点・単元などはそれぞれが関わり合うものとして考える。

33

## 単元計画作成の順番



34

## ◎の単元の取り扱い

◎の単元を選ぶポイント

①言語材料が最終タスクと相性が良いか

プレゼンテーションを行うなら同じ形式となっている単元を選択する  
 ※言語材料については「単元を跨いで指導」していくため、難しいようなら②へ

②「内容」が興味関心を引き立てやすいか

単元の最終タスクとしてPTを実施するため、内容が面白いほうが良い  
 「表現したい」と思えば活動はうまく行く

今年度のPTについて、「発表」は①の観点、「やりとり」は②の観点で選択した  
 特に「やりとり」については1つの単元の言語材料で完結させるのは難しいため、  
 言語材料に着目しすぎないようにした

35

## ◎の単元の取り扱い

書くこと・聞くこと・読む  
 ことのPTは定期テスト  
 内で実施

今年度実施したパフォーマンステスト

	話すこと(発表)	話すこと(やりとり)
英語コミュニケーション	プレゼンテーション ...屋久島について紹介する単元を基に、 観光地を一つ設定してプレゼンテーション を実施。 ①クラス内発表(質疑応答含む) ②ALTと一対一で発表	ディスカッション クラス内でテーマについてのディスカッ ション →ALT・JETと1対1でやり取り。 (Preparedの質問1つ、即興の質問1つ、 Discussion Question1つ)
論理・表現	レシテーション ...英文を暗唱して発表(知・技) プレゼンテーション ...英Cの任意の単元に関連する内容等 をテーマとして設定し、クラス発表→学 年で発表	GTEC Speakingのスコアを評価に活用

実施できなかったクラスがあったため、前段  
 階の「屋久島について紹介する」タスクで共  
 通のPTを実施。

36

## ◎の単元の取り扱い

パフォーマンステスト実施に向けて...必要な技能を細分化する

発表(プレゼンテーション)	やりとり(ディスカッション)
まとまった量を話すことができる 相手の話していることについてのメモを取ることができる スライドを作成することができる 優れたDeliveryで話すことができる	相手の意見の要点を捉えることができる 相手の意見を評価することができる 相手に対して質問することができる

→年間指導計画に落とし込んでいく

37

## 「発表」への指導計画

単元	軽重	重点指導項目	タスク	目標
ブリッジ	○	学習方法の確認等	学習方法の確認・スピーチ	4技能5領域の基礎の指導
Lesson 1	○	話(発表)・書	スピーチ	まとまった量を話す・質問をする
Lesson 2	△	読・聞	速読(時系列)、メモの取り方	メモを取る・感想を述べる
Lesson 4	◎	話(発表)・書一	プレゼンテーション	スライドの作成、プレゼンテーション
【同じ時期の論理・表現の授業で】 ・レシテーションコンテストに向けたDelivery、Pronunciationの指導				英C⇄論表間の「乗り入れ」

※学年末に論理・表現の授業において、再度プレゼンテーションを実施し、技能の伸長を測る

38

## 「やりとり」への指導計画

単元	軽重	重点指導項目	タスク	目標
Lesson 3	○	話(やりとり)	ディベート・ディスカッション	即興性。やり取りの中でのメモ
Lesson 5	△	読・聞	速読(時系列)、意見・感想を述べる	インプットへのコメント
Lesson 6	△	読・聞	速読(要点)、要点をまとめる	話の要点を捉える
Lesson 7	○	話	プレゼンテーション、即興の質問	メモを取る、質問をする、意見を述べる
Lesson 8	○	話・書	ディスカッション	相手の意見を即興で評価する
Lesson 9	△	読・聞	速読(要点)、意見を述べる	読み取った内容を評価する
Lesson 10	◎	話(やりとり)・書	ディスカッション	即興での「やりとり」

【年間を通じて論理・表現の授業の中で】  
・身近な話題についてのやり取り(帯活動)

英C⇄論表間の「乗り入れ」

※プレゼンテーションで取り組んだ事柄は継続的に確認し、年間を通して発展させていく  
タスクの難易度については生徒の到達状況を見ながら調整していく

39

## ◎の単元の取り扱い

単元の流れ

1時間目	2～9時間目	10時間目	11～13時間目
【単元全体の導入】 Oral Introduction	【各パートの指導】 本文のリスニング・読解	【本文のまとめ】 本文全体の再話・要約	【最終タスク】 プレゼンテーション
最終タスクの導入 —体験版Presentation —体験版Discussion	言語材料の導入  音読・再話	※場面設定を工夫し、最終タスクで取り組むことの導入となるように。 —ロールプレイ形式 —要約＋意見・感想	...スライドの作成 ...原稿の作成 ...グループ・ペア発表 ...模擬PT ディスカッション
	最終タスクで必要となる技能の指導 —メモを取る —即興で話す —感想を述べる —質問する...等	【最終タスクの導入】 タスク・PTの説明 内容の導入 =「ゆさぶり」を与える	...別のテーマや場面で練習 ...グループ・ペア発表 ...模擬PT
			【パフォーマンステスト】

※各教員の創意工夫を生かすため、最終タスクと指導の流れは共有するが、アプローチは各教員に委ねる

40

## ◎の単元の活動例

Lesson 4 “Eco-tour in Yakushima” 最終タスク:『Presentation』

### 【内容】

- ・本文の形式を参考に英語で1分程度のプレゼンテーションを作成
- ・3人グループで発表し、1分の発表後、聞き手の2名から質疑応答を行う
- ・聞き手はメモを取りながら聞き、質問を即興で用意する
- ・パフォーマンステストで評価

41

## ◎の単元の活動例

各単元で指導した項目

- |   |   |
|---|---|
| 論理・表現 / 英C Bridge教材「Nagara English」<br>・Communication Strategyの導入→Follow Up Questionの練習                     | 各単元で<br>取り組ん<br>だことを<br>再利用し<br>ながら発<br>展させて<br>いく。 |
| Lesson 1: Enjoy Your Journey!<br>・帯活動で1分間の即興スピーチ<br>・スピーチに対してFollow Up Questionをする練習                        |   |
| Lesson 2: Curry Travels around the World<br>・スライドを見せながらプレゼンテーション形式で内容のインプット。メモを取る練習<br>・読み取ったことに対して感想を述べる練習 |   |
| Lesson 4: Eco-tour in Yakushima<br>・スライドを使ってプレゼンテーション形式でリテリング<br>・帯活動で即興スピーチ<br>・スライドを使ったスピーチ(プレゼンテーション)    |   |

42

## ◎の単元の活動例

Lesson 10 “Friendship Overtime” 最終タスク『ディスカッション』

### 【内容】

- ・3人グループでのディスカッション
- ・各自与えられた場面に即して即興でやり取りを行う
- ・相手の言ったことに対して即興で質問したり、賛成・反対したりする
- ・パフォーマンステストで評価

43

## ◎の単元の活動例

各単元で指導した項目

- |   |   |
|---|---|
| Lesson 4までに...<br>・即興で話す練習。質問する練習   | 各単元で<br>取り組ん<br>だことを<br>再利用し<br>ながら発<br>展させて<br>いく。 |
| Lesson 5, 6, 9 (△の単元)<br>・読み取ったこと、聞いたことに対してメモを作成し、即興でリテリング<br>・メモを基に即興で感想や意見を述べる練習        |   |
| Lesson 3: School Uniform<br>・ディベート(=即興スピーチの連続)の練習<br>・ディベート内“Free Battle”で即興でのQ&Aによる反論の練習 |   |
| Lesson 7・8<br>・ペアで感想や評価を批判的に述べる練習(=やり取りの質の向上、批判的思考)                                       |   |
| Lesson 10<br>・グループディスカッション、ロールプレイ   |   |

44

## ○の単元の取り扱い

○の単元を選ぶポイント

※PTの有無の差であるから、基本的には◎と同じ発想で選ぶ

- ①言語材料が各単元の最終タスクと相性が良いか
- ②「内容」が興味関心を引き立てやすいか

◎よりも「ちょっと面白くなさそう」「ちょっと扱いにくそう」な単元を○に設定する

ただし...

◎の単元で総括的評価を行うための形成的評価を行う単元であることを念頭に！！

45

## ○の単元の取り扱い

単元の流れ

1時間目	2～9時間目	10時間目
【単元全体の導入】 Oral Introduction	【各パートの指導】 本文のリスニング・読解	【本文のまとめ】 本文全体の再話・要約 ※場面設定を工夫し、最終タスクで 取り組むことの導入となるように
最終タスクの導入 — 即興での質問 — 即興スピーチ — メモの作成 等単元に応じて	言語材料の導入  音読・再話  最終タスクのリハーサル ...Part毎や帯活動でタスクを繰り返し 実施し、質を高めつつ、◎単元で改 めて実施できるよう定着を促す	※場面設定を工夫し、最終タスクで 取り組むことの導入となるように — ロールプレイ形式 — 要約＋意見・感想  【最終タスク】 リハーサルで取り組んだこと的最终 成果を確認 →◎単元ではないので、形成的評 価を行い、総括的評価は行わない

※各教員の創意工夫を生かすため、最終タスクと指導の流れは共有するが、アプローチは各教員に委ねる

46

## △の単元の取り扱い

△の単元を選択するポイント

- ①ジャンル・内容に偏りが出ないようにすること
- ②時系列になっている、パラグラフ構造がはっきりしているなど、リーディング・リスニングストラテジーの指導と相性のいい単元

ただし、◎・○との兼ね合いで設定していく可能性が高いため、運営上は

**○と◎で選択されなかった単元**

を△に指定している

47

## △の単元の取り扱い

△の単元の狙い

- ①詳細な言語事項に着目せず、「要点を捉える」ことに主眼を置く  
→定期考査における【思・判・表】を測る問題のリハーサルを行う

日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』

- ②まとまった量の英文を読み、「分量に耐える」力を身に着ける  
→模擬試験の演習の準備を教科書で実施する。
- ③インプットの方法を工夫し、PTで必要な技能を指導する  
→「要点をつかむ」力や、Good Reader / Listenerとしての振舞の指導を行う

初見問題を生徒任せにしないよう  
初見の対応を指導する。

48

## △の単元の進め方

1時間目	2時間目	3時間目
<b>【初見での処理】</b> ・導入 ・単元全体のリスニングor読解 →通し読み →メモを取りながらのリスニング →パラグラフごとに要約	<b>【「知識・技能」の確認】</b> ・読み方の指導 ・重要表現の確認 ※全体の細かい解説はしない ＝定期考査でも出題しない ・一部キーセンテンスの音読	<b>【最終タスク】</b> ・本文の要約 ・本文への評価・意見 ・初見英文の要約 ・同じ形式の別英文での読解演習

出題しない箇所があるため、指導する言語材料は同僚と共有するが、指導方法は各教員の工夫に委ねる

※定期考査においては

・関連内容の初見英文の出題【思考力・判断力・表現力】

・2時間目で確認した箇所についての出題【知識・技能】を中心に出题する

※3時間目最終タスクについては必要に応じて◎の単元のPTの形成的評価とする  
 ただし追加読解練習で単元を終える場合は、定期考査で総合的評価を行う

49

## △の単元の取り扱い

定期考査で出題する「初見問題」の設定方法

- ①教科書付属の類似問題を活用する
- ②教科書のテーマを対話文、要約文に書き換えて出題する(半初見問題)
- ③教科書の英文を評価する文章を出題する(テーマについての賛否等)
- ④同様のテーマ、同様の言語材料となっている英文を作成する

②～④...ALTに作文・作問を依頼 / ChatGPT等の生成AIを活用

難易度調整のため、初見英文に使用した英文のリーダビリティを測定

Flesch Reading Ease 【Microsoft Wordの「校閲」機能でチェック】

新JACET8000 【New Word Level Checkerでチェック】

小説については物語文法などの観点からも分析し、類似の形式になるように

50

## △の単元の取り扱い

【参考:使用しているリーダビリティの指標】

### Flesch Reading Ease

文の平均の長さとして1単語当たりの平均音節数の関係

→1文が短く、単語の平均音節数の短い文は難易度が低い

→1文が長く、単語の平均音節数の多い文は難易度が高い

※60-70が標準で、小さいと英文が難しく、大きいと英文が簡単

※Wordの校閲機能で簡単に数値が得られる。

類似のものでFlesch-Kincaid Grade Level(レベルを学年で表す)もある

51

## △の単元の取り扱い

【参考:使用しているリーダビリティの指標】

### 新JACET8000

日本人学習者のための教育語彙集。1000語単位でレベル分け

語数	レベル
1-1000	基本単語 中学校教科書程度
1000-2000	高校初級程度
2000-3000	高校教科書程度
3000-4000	大学受験 大学一般教養の初級
4000-5000	難関大学受験 大学一般教養
5000-6000	英語を専門としない大学生やビジネスマンの目標
6000-7000	英語を専攻する大学生やビジネスマンの目標
7000-8000	日本人英語学習者の単語目標のゴール

52

## △の単元の取り扱い

【参考 教科書(LANDMARK I)各単元のリーダビリティ指標】

単元	FRE	FKG	JACET Level 1	JACET Level 2	JACET Level 3	JACET LEVEL 4
Lesson 1	84.3	4.1	86.01%	7.52%	1.04%	0.63%
Lesson 2	68.5	6.4	74.69%	11.94%	2.85%	1.07%
Lesson 3	63.9	7.1	74.59%	13.26%	2.95%	0.74%
Lesson 4	65.8	7.1	77.15%	5.06%	1.99%	0.92%
Lesson 5	63.3	7.5	77.37%	9.48%	3.21%	1.07%
Lesson 6	52.2	9.2	74.96%	10.65%	2.01%	1.73%
Lesson 7	66.4	7.1	83.98%	5.39%	1.69%	0.77%
Lesson 8	54.4	8.9	79.92%	8.22%	1.75%	0.67%
Lesson 9	60.0	8.4	76.09%	11.01%	4.64%	0.43%
Lesson 10	66.9	7.4	74.85%	9.89%	2.32%	2.81%

53

## まとめ

- ①PT実施の上で必要な技能を細分化する  
→○・△の単元で年間を通して計画的に指導する  
※必要があれば論理・表現の授業での「乗り入れ」も検討する
- ②マトリックス内の同じ項目が複数回実施されるよう配慮する  
＝リハーサル(形成的評価)と本番(総括的評価)を明確に分ける
- ③Receptive Skillsの「思・判・表」を評価する初見問題を「実力テスト」にしない  
＝△の単元で「読み方」を指導する。指導要領に方向性のヒントがある
- ④初見問題の英文の設定の際は難易度に配慮する  
→可能な限り数量的に分析する

54

## 最後に

中島(2022)より

教科書は、そのままでは生キャベツと同じ生の素材(食材)です。それを餃子、お好み焼き、コロッケ、ロールキャベツやポトフに至る多彩な料理(授業なら教材)に返信させるには教師の腕が必要です。素材をわくわくする教材に変えるには、どの子も「やってみたい!」と願うような課題、挑戦したくなる発問を用意することです。(中略)そこで、「つきたい力」が羅針盤として明確に示されている学習指導要領が授業づくりの手順書となるのです。(中略)まず学習指導要領を学期末、学年末に自分の授業を振り返る「処方箋」として使います。実際に自分で考えて授業をした後なので、具体的な場面と学習指導要領に書かれている目標が頭の中に繋がりがやすくなっているからです。(後略)

自らの「知恵」と「経験」を基にまずは実践し、修正を重ねていくことが重要  
＝皆が同じ方向を向くための「道しるべ」として、学習指導要領を活用していく

55

## 最後に

- ・「構文の解説を徹底的にやるべきである。出来るようになってほしい!」  
⇒「ファジーでも良いから理解してあげればよいのではないか。」
- ・「アウトプットのためにはとにかく使う機会を与えるべきだ。」  
⇒「知識を定着させなければ使わせても意味がない。」
- ・「文法と語彙を徹底して小テストで詰めるべきだ。」  
⇒「そこまでやらなくても英語はできるようになるのではないか。」

それぞれの成功体験に基づくことが多い  
＝「経験」と「知恵」があるゆえに、指導内容の完全な共有は難しい

56

## 最後に

「効果のある授業実践」の完全な共有は「こだわり」があるから難しい  
チームで同じ方向を向くためのキーワードは...

# 「無理なく・無駄なく」

「効率よく」できることに対して嫌がる人は少ない  
⇒「効果のある指導計画」のチーム内での完全な共有は可能である

57

## 最後に

研究のポイント

# 「◎・○・△ をつけること」

もしこの研究で合理性を示すことができているならば、  
チーム皆で◎・○・△をつけて授業計画を組んでみませんか？

チーム  
≠長良高校英語科  
=チーム岐阜

→来年高校教育課に提出する「年間指導計画」に驚くべき変化をつけましょう！

58

## 参考文献

- 金谷憲(2009)『教科書だけで大学入試は突破できる』大修館書店.  
中嶋洋一(2023)『授業デザイン力を高める3つの力 —読解力・要約力・編集力』大修館書店.  
金谷憲(2017)『レッスンごとに教科書の扱いを変える「TANABU Model」とは』アルク選書.  
文部科学省(2008)『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』.  
文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』.  
文部科学省(2018)『新しい学習指導要領の考え方～中央教育審議会における議論から改定そして実施へ～』  
国立教育政策研究所(2018)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』.

59